１日目の総括（メモ）

１．ズワイガニ北海道西部系群・オホーツク海南部系群、スケトウダラ根室海峡系群・オホーツク海南部系群のそれぞれについて、
①水研機構から、資源評価の更新と、前回会合からの宿題事項の検討結果について説明
②水産庁から、漁獲シナリオの案を説明
③意見交換
の形で議論を進行。

（１）ズワイガニ北海道西部系群について、
水研機構からの科学的助言を踏まえ、水産庁より、
・「資源量指標値（カニかご漁業による標準化ＣＰＵＥ）」を用いて、「その他の目標となる値」を定めることとし、その値を 1.0 付近とすること、
・2021 年漁期のＴＡＣは、前年と同量の 43 トンとすること、
を提案し、議場からは特段の異論なく、今後の手続きを進めていくことになった。

（２）ズワイガニオホーツク海南部系群について、
水研機構からの科学的助言を踏まえ、水産庁より、
・「資源量指標値（調査船による漁獲対象資源（甲幅 90㎜ 以上の雄）の分布密度推定値）」を用いて、

「その他の目標となる値」を定めることとし、その値を 2017 年の推定値である「5kg/km²」とすること、
・2021 年漁期のＴＡＣは、前年と同量の 1,000 トンとする（ただし 2020 年漁期の漁獲状況によって数字を変える可能性がある）こと、
を提案し、議場からは特段の異論なく、今後の手続きを進めていくことになった。

（３）スケトウダラ根室海峡系群について、
水研機構からの科学的助言を踏まえ、水産庁より、
・「資源量指標値（近年の漁獲の主体であるすけとうだら刺網のＣＰＵＥ）」を用いて、「その他の目標となる値」を定めることとし、その値を 2019 年の推定値である「0.71 トン/隻日」とすること、
・2021 年漁期のＴＡＣは、前年と同量の 20,000 トンとする（ただし 2020 年漁期の漁獲状況によって数字を変える可能性がある）こと、
を提案し、議場からは特段の異論なく、今後の手続きを進めていくことに同意が得られた。

（４）スケトウダラオホーツク海南部系群について、
水研機構からの科学的助言を踏まえ、水産庁より、
・「資源量指標値（近年の漁獲の主体であるかけまわしのＣＰＵＥ）」を用いて、「その他の目標となる値」を定めることとし、その値を過去平均水準である「3.41 トン/網」とすること、
・2021 年漁期のＴＡＣは、平成 31 年漁期の実績に基づき 56,000 トンとする（ただし 2020 年漁期の漁獲状況によって数字を変える可能性がある）こと、

を提案したところ、参加者からは特段の異論なく、このとおり今後の手続きを進めていくことに同意が得られた。

２．その後、スケトウダラ太平洋系群について、水研機構より資源評価の更新結果及び第１回検討会での指摘事項への検討結果を説明し、水産庁より漁獲シナリオの案について説明。翌日も引き続き議論する前提で、質疑も行ったところ、参加者から、

・獲り残した分は全量を繰越できるようにして欲しいと要望してきた。上限を設ける必要性について、納得が行かない。
・繰越数量の計算方法についても納得が行かない。自然死亡と成長を加味して、βにかかわらずより多くの繰越が可能ではないか。
・沿岸漁業の漁獲は水温や来遊に影響されるため、獲れる時には安心して操業できるような、繰越の仕組みにして欲しい。

等のご意見を頂きました。また、この他にも、資料の表現ぶりについてのご指摘、事実関係の確認等の質疑を行ったところです。

以上